

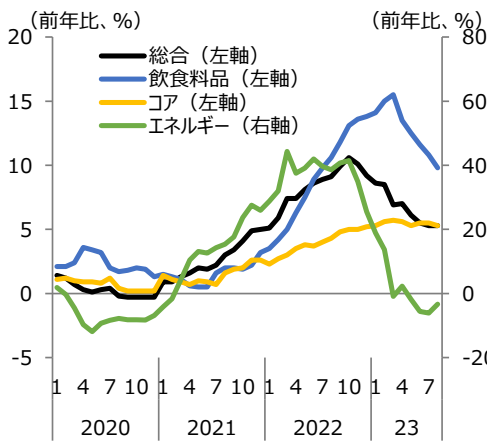
欧州

消費者物価（2023年8月）

基調的な物価上昇圧力は依然として高止まり

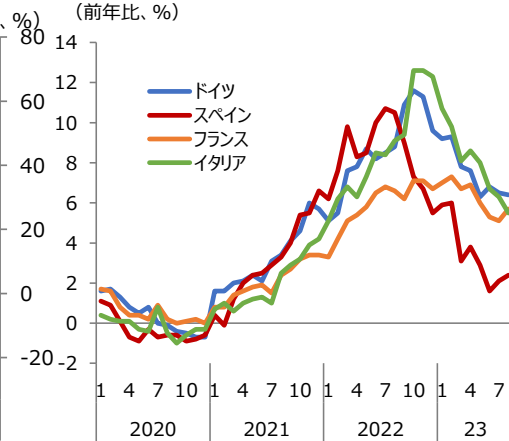
政策・経済センター  
綿谷謙吾  
03-6858-2717

1 消費者物価（ユーロ圏）



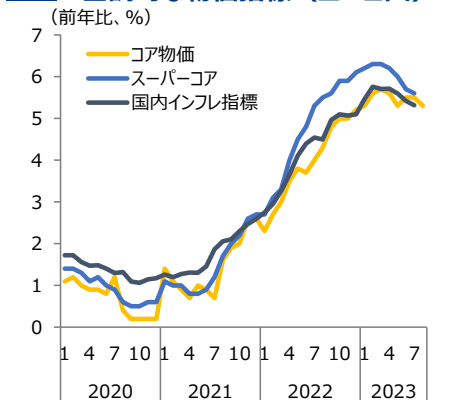
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2 消費者物価（総合、主要国）



出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

3 基調的な物価指標（ユーロ圏）



注：直近はコア物価は23年8月、その他は23年7月。スーパーコアは需給ギャップと関連性がある品目から試算し、ECBが公表する指数。国内インフレは、輸入依存が低い品目の物価指標で、ECB(2022) "A new indicator of domestic inflation for the euro area"を参考にMRI試算。  
出所：ECBなどより三菱総合研究所作成

4 賃金（ユーロ圏）



注：直近は実質賃金は23年4-6月期、労働コスト指数は23年1-3月期。  
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 23年8月のユーロ圏の消費者物価指数（HICP、速報値）は前年同月比+5.3%（図表1）。物価上昇率は7月と変わらず。
- エネルギー価格は前年の価格高騰の反動から前年比マイナスが継続、飲食料品価格も伸び鈍化が続いた。ECBが金融政策判断で重視する指標の1つであるコア物価は、前月から伸びは鈍化したが（7月同+5.5%→8月同+5.3%）、5%超で高止まりしている。ECBが目標とする2%にはまだ距離がある。
- 主要国の総合指数は、フランス・スペインは前月から伸びが拡大、ドイツは小幅だが伸びが鈍化した（図表2）。ドイツは総合指数の伸びは鈍化したが、前年の政策効果（「9ユーロチケット（公共交通機関の定額乗り放題）」などの政策支援）の反動からコア物価の伸びは拡大。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の消費者物価は、基調的な物価上昇圧力が依然として強い。
- 先行きも基調的な物価上昇圧力の高止まりが続くとみる。ECBが23年8月に公表したレポートを参考に、各種の基調的な物価指標をみると、伸びは鈍化しているが、2%超で高止まりしている（図表3）。
- 特に、国内インフレ指標（HICP構成目品の3割強をカバー）の構成目品は人件費割合の高いサービス業が中心だ。ユーロ圏経済は低成長が続いているが、雇用環境は堅調であり、高めの賃金上昇も続いている（図表4）。欧州の賃金交渉は、複数年で妥結されるため、22年後半や23年前半に高めの賃金上昇で妥結した影響は今後も残ると予想される。基調的な物価上昇圧力の緩和には時間を要するだろう。
- ユーロ圏経済は既往の引締め効果が实体经济に顕在化しつつあるが、物価安定を重視するECBは、基調的な物価上昇圧力が緩和したと判断できるまで、高めの金利水準を維持するだろう。